

平成 22 年 4 月 10 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：平成 19 年度～平成 22 年度
課題番号：19720123
研究課題名（和文）植民地朝鮮におけるラジオ「国語（日本語）講座」の展開とその効果に関する研究
研究課題名（英文）Research of radio program of “KOKUGO KOZA” as national language in Colonial Chosen
研究代表者
上田 崇仁（UEDA TAKAHITO）
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：90326421

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：日本語教育史

1. 研究計画の概要

本研究は、植民地であった朝鮮半島における「国語」としての日本語教育のうち、ラジオという当時の最新メディアを利用した講座を対象に、調査研究を行うものである。従来、メディア史研究の中でラジオは扱われてきていたが、そこに教育的な視点からの記述は少なく、日本語教育としての視点からの記述は皆無である状況であった。また、戦前の日本語教育については、語学教育としての視点よりも、思想的教育としての把握が強調されがちであった。そこで、本研究では語学教育のための講座として、ラジオ講座を取り上げ、どのような内容をどうやって教えようとしていたのかを明らかにするとともに、そのラジオ講座が通時的にどのように展開していったか、またその放送が当時どのように影響を与え、効果を上げていたのかを明らかにしたいと考えている。

2. 研究の進捗状況

研究開始時点で把握していたこととしては、放送されたラジオ「国語講座」に 4 種類の番組があったことであった。

本科研を受けてから、ラジオ講座のテキストの発掘と、当時ラジオを聴いていた人の発見に努めてきた。

その結果、ラジオテキストは 1 冊発見することができた。また、当時の新聞にテキストが抜粋掲載されていることも確認できた。

新聞掲載のプログラム欄の整理は、入力作

業に移るための紙資料としての整理は終了している。今後、電子データとして利用できるよう入力作業を進める予定である。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

日常的な蓄積としての研究の達成についてはほぼ想定通りである。

しかしながら、資料収集及びインタビュー調査については、調査時間の確保や調査対象者の発見ができていないということから想定していた達成度には到達していないと考えている。

4. 今後の研究の推進方策

韓国での現地調査をソウルだけでなく、地方都市にまで広げて行い、特に、朝鮮戦争で戦火にあっていない釜山地域の古書店や図書館、博物館などの蔵書を調べていき、資料を整えたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

〔学会発表〕(計 1 件)

上田崇仁 日本語教育史研究会「植民地朝鮮の新聞「毎日申報」に掲載された「国語」講座の変遷」

〔図書〕(計 1 件)

上田崇仁「虞巨神悪疎拭辞 沙 縦肯走 繕識税 [厩嬢(析嬢)嘘整税 働臟] 『悦企 厩厩税 析雌持醜引 耕巨嬢』 館厩企俳嘘 疑丞俳尻姥社

(2008)

〔産業財産権〕該当なし

〔その他〕

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/TAKA730/>